

第3期計画 安平町生涯学習計画 別紙

# 安平町学校教育ビジョン



計画期間 令和3年度～令和6年度

安平町教育委員会

## はじめに

### 平成 30 年北海道胆振東部地震

平成 30 年 9 月 6 日未明に発生した北海道胆振東部地震によって、安平町は未曾有の災害に見舞われました。住宅や上下水道、道路などはもとより教育関連施設も大きな被害を受け、児童生徒は仮校舎、仮設校舎での生活を余儀なくされました。

### 仮校舎、仮設校舎での学びの姿

校舎が使えなくなった追分小学校の児童は追分中学校で過ごし、同じく校舎が使えず仮設校舎で過ごす早来中学校の生徒は体育など一部の授業を早来小学校で行うことになりました。今までの日常が大きく様変わりし不便を強いられる中、児童生徒たちは学校や学年の枠を越え、互いに協力して自分たちの学校生活をつくりあげ、行事や課外活動では地域の大人たちを勇気づけるたくましい姿を見せてくれました。

### 社会環境の変化と進むべき方向性

地震がもたらした極限の状況において、現状を悲観するのではなく、ただ受け入れるのではなく、既存の枠組みを超えて仲間と協力し、地域や社会とともに前に進もうとするその姿は、グローバル化が一層進展し、IoT や AI が新たな価値を生み出すであろう次の時代の社会において、われわれが進むべき方向性や描くべき未来を示してくれたように思います。

### 普遍的な社会像

いかなる時代にあっても人と人との結びつきを基盤とした社会は変わることはありません。

### 実現したい社会像

生涯を通じて自ら学び続け、学んだ成果を地域や社会に発信し、行動に移すことができる生涯学習社会を実現すること。人と人が笑顔とぬくもりに満ちた関係でつながり、一人一人が尊重され、より良くより豊かに生きていくこと。

### 学びの場としての学校

安平町の学校はそんな学びの場でありたいと思っています。

## 安平町が経験した 困難と未来

教育は国家百年の計と言われていました。しかし、どんなに教育が施され文明が進んだとしても自然にはかなわないことを安平町は経験を以て知らされました。一方で、どんな極限状態であっても人と人がつながり、協力し、互いに支え合うことで困難を乗り越えることができることも知っています。

## 被災した学校の再 建

未曾有の大災害に見舞われ、人口減少が進み財政も逼迫する状況の中、安平町は被災した早来中学校の再建を通して教育にこの町の未来を託しました。

## 社会の変化と学び の変容

Society5.0（超スマート社会）や地球規模の環境問題、新型コロナウイルスの流行など社会が大きく変わり、変化の予測が困難な時代と言われています。また、そのような社会変化の中で「新しい時代を切り拓く心豊かでたくましい人材」を育成するため、学校での学びのあり方も、「何を学ぶか」から「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」が求められるようになっていきます。

## 学校のあり方

どのような時代の変化があっても学校が児童生徒や地域にとって「学校」であることに変わりはありません。それは、単に知識や技術を習得し、資質や能力を伸ばすというだけの学校ではなく、人と人が出会い、出会いと経験を通して学び、成長していくという意味での「学校」です。

## まちづくりとの関 連

平成26年12月に施行された安平町まちづくり基本条例には、その前文に「私たちは、先人の弛まぬ努力と英知によって開墾し興した生業の地に歴史を刻み、培われた風土と文化を受け継ぎ、新しい時代の進路を切り拓き、いつまでも住み続けられる自立した地域として、次の世代へと引き継いでいかなければなりません」と記されています。

## 学校教育ビジョン の趣旨

先人の思いを受け止め、時代の変化があっても変わらない安平町の全ての学校のあり方を示すため、ここに「安平町学校教育ビジョン」を策定します。

## (1) 安平町学校教育ビジョンの位置づけ

安平町の学校教育  
の構造

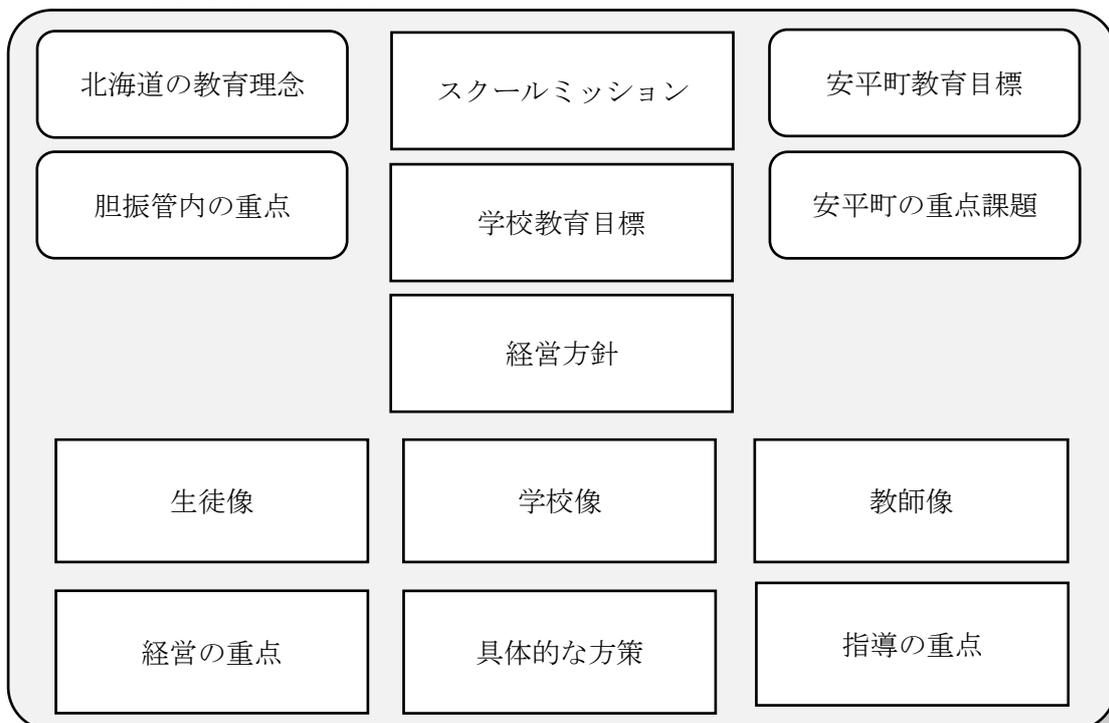
安平町学校教育ビジョンは、「生涯学習計画」の一部と位置づけ、教育分野の中のとりのわけ学校教育における、安平町の全ての学校が果たすべき使命、ありたい将来像、大切にしたい価値や判断指針を示したものです。これらは児童生徒や地域の実態をもとに各校で策定される学校教育目標や目指す子ども像、具体的な教育計画とは異なり、安平町全体の学校教育における普遍的な学校のあり方を示すものです。そのため、上位目標や到達目標として設定されるのではなく、学校教育の全体を支える『概念』として位置づけられます。

この概念に基づき、安平町教育委員会は安平町の全ての学校の教育活動を支え、安平町の全ての学校はこの概念を基底とした教育活動とアセスメントを実施していくことを責務とします。

学校教育ビジョン  
の期間

安平町学校教育ビジョンは、生涯学習計画の一部であることから、令和6年度までを計画期間とします。よって、以降は当然に生涯学習計画期間と等しくなります。

## &lt;安平町の学校教育全体構造図&gt;



## 安平町学校教育ビジョン

Mission (存在意義) Vision (ありたい姿) Value (大切にしたい価値、判断指針)

安平町学校教育ビジョンの構成

安平町学校教育ビジョンは①Mission（存在意義）、②Vision（ありたい姿）、③Value（大切にしたい価値、判断指針）によって構成されます。

存在意義

Mission（存在意義）は、教育基本法第6条（学校教育）の定めに従うことを前提としつつ、そこからさらに踏み込んで安平町の学校はなんのために存在するのか、各学校が安平町に存在する意義とは何かを示しています。

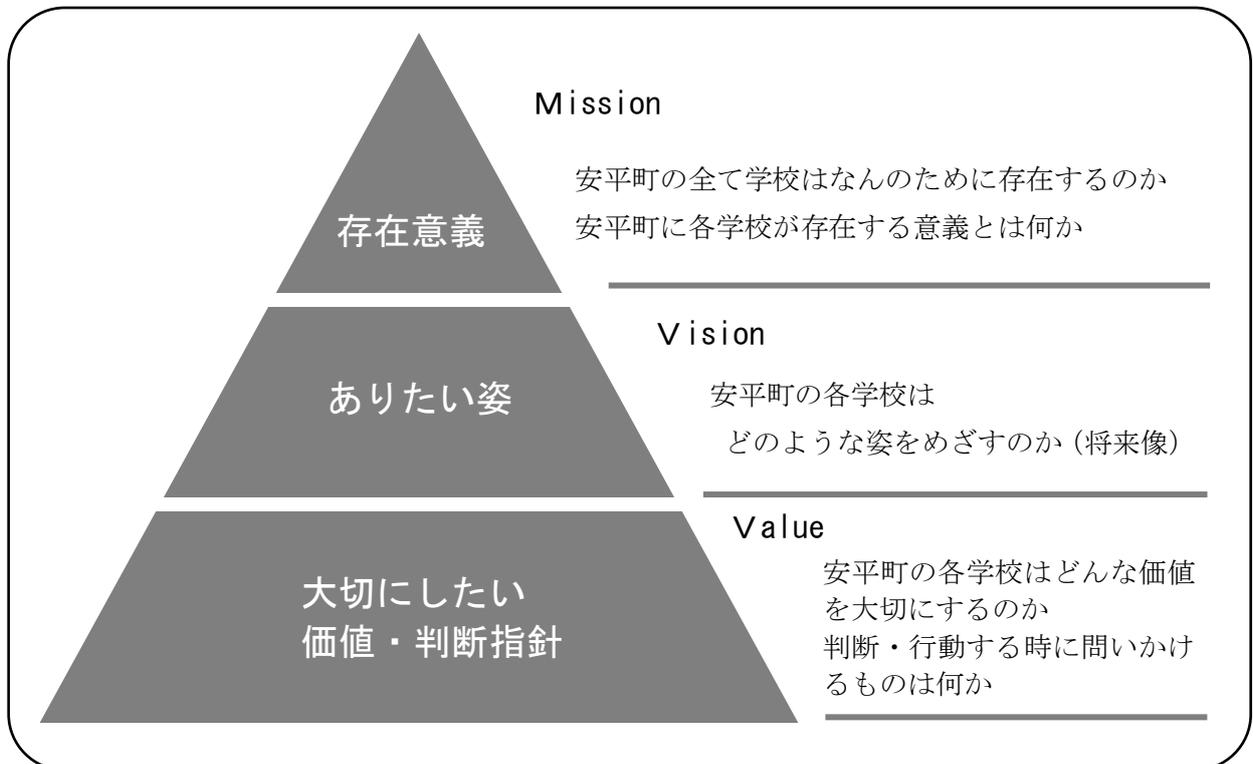
ありたい姿

Vision（ありたい姿）は、学校の制度や教育内容としての姿ではなく、安平町の各学校がどのような姿を目指すのか、学校としての将来像やあり方を具体的に示したものです。

大切にしたい価値、判断指針

Value（大切にしたい価値、判断指針）は、安平町の学校教育において教師や児童生徒、保護者や地域など学校に関わるすべての人たちが大切にしたい価値や判断・行動するときに問いかける判断指針を示しています。

<安平町学校教育ビジョンの全体像>

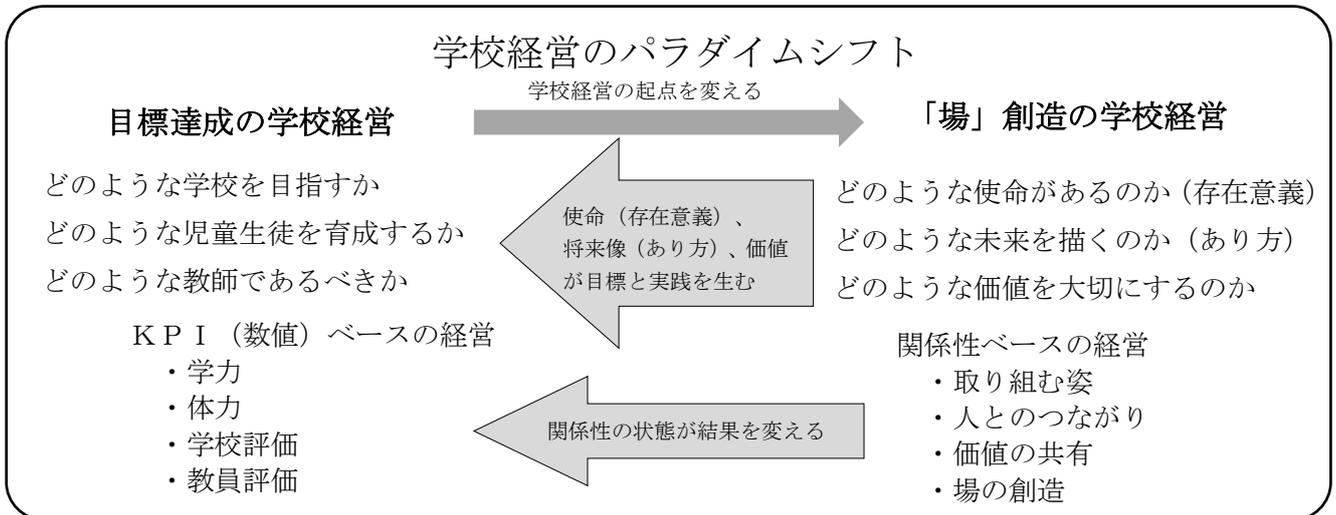


(1) 学校経営のパラダイムシフト<sup>1</sup>

よりよい学校教育がよりよい社会を創るという理念のもと、学校においては社会に開かれた教育課程の編成に努め学校経営を進めていきますが、社会を構成しているのはそこで暮らし生きている一人一人の人です。人の生き方は数値だけでは評価できず、何らかの計測で算出された数値はその人のごく一部を表しているに過ぎません。

児童生徒や教員を数値で評価する KPI<sup>2</sup>が過度に重視された学校経営に偏ると、展開されるカリキュラム・マネジメント<sup>3</sup>は数値目標の達成が目的となり、ややもすると存在意義やあり方、価値など数値化されないものが置き去りにされ、人格の完成を目指すという教育の目的を見失うおそれがあります。

安平町の学校教育においては、学校経営の起点を学校の存在意義やあり方、大切にしたい価値におき、その起点から目標を設定し実践していきます。そこで行われる教育活動は、実践で見られる取り組みの姿や人とのつながり、価値の共有や場の創造といった「場」と関係性の構築・広がり、深化を目的に展開します。学校という「場」において、より良い関係性や価値の共有が実現できたときは、主体的・対話的で深い学びが日常的に行われ、子どもたちの世界観や視野が広がり、良好な人間関係が築かれているといった多方面への良い影響がこととなります。影響を受ける事象の様相を表現する一つの指標としての KPI も付随して変化することとなりますが、それはあくまでも多くの変化の一側面であり、学校経営改善の情報の一つとして扱います。



<sup>1</sup> パラダイムシフトとは、それまで当たり前だと考えられていた枠組みや見方の変化を指す

<sup>2</sup> KPI（Key Performance Indicator の略）とは、「重要業績指標」と訳される用語で目標達成度合いを測定するための計量基準群のことを指す

<sup>3</sup> カリキュラム・マネジメントとは、各学校が教育目標を実現するために、教育課程を計画的かつ組織的に編成・実施・評価し、教育の質を向上することを指す

## (2) Mission 安平町の学校教育の使命（存在意義）

人と出会い人が育つ場をつくる

世界と出会い世界とつながる機会をつくる

テクノロジーの進歩により、机上の知識は学校に来なくても得ることができるようになりました。また、特定技能の習得も学校以外で機会を得ることができます。しかし、人が対話や体験を通して得る深い学びとしての知識や技能習得の過程にある全人的な教育は、学校が持つ学びの価値です。

人は人と出会って人になります。価値観の多様化は、個人の選択によってはややもすると新しい領域や自分の知らない世界との出会いの機会を狭めることにもなります。全ての子どもに偶然性を含みつつ必然的に、多くの同世代、多世代の人と出会う場をつくれることは、学校が持つ大きな強みでもあります。

学校の学びを通して得られる、今まで知らなかった、人、もの、ことといった地元や地域、さらには新たな世界との出会いやつながりの機会の創出は学校の使命であり、学校が存在する大きな意義です。

## (3) Vision 安平町が描く学校の未来（ありたい姿）

安平町の自然や地域、文化や人に触れ、支え支えられる中で、

学校を通してスポーツ、テクノロジーや異年齢、多世代の人達、

たくさんの本物と出会い、

さらに、色々な考え、多様な価値観、多くの学び、夢とも出会い、

世界に生き、世界へと羽ばたいていく

北海道胆振東部地震から4ヶ月後、被災した早来中学校の再建にあたり、最初に議論したのは「学校とは何か」「学校はどんな場か」でした。広く住民参加があった議論で出てきた学校像がこの姿でした。その精神は、安平町まちづくり基本条例の前文に通じ、ふるさと安平町で人とのつながりや多くの出会いを通して生き、新しい時代の進路を切り拓いていく子どもたちの姿や学校のあり方が描かれています。これらは、あくまで議論のきっかけが早来中学校の再建であったにすぎず、安平町の全ての学校に通じるものです。

(4) Value 安平町の全ての学校が大切にしたい価値、判断指針

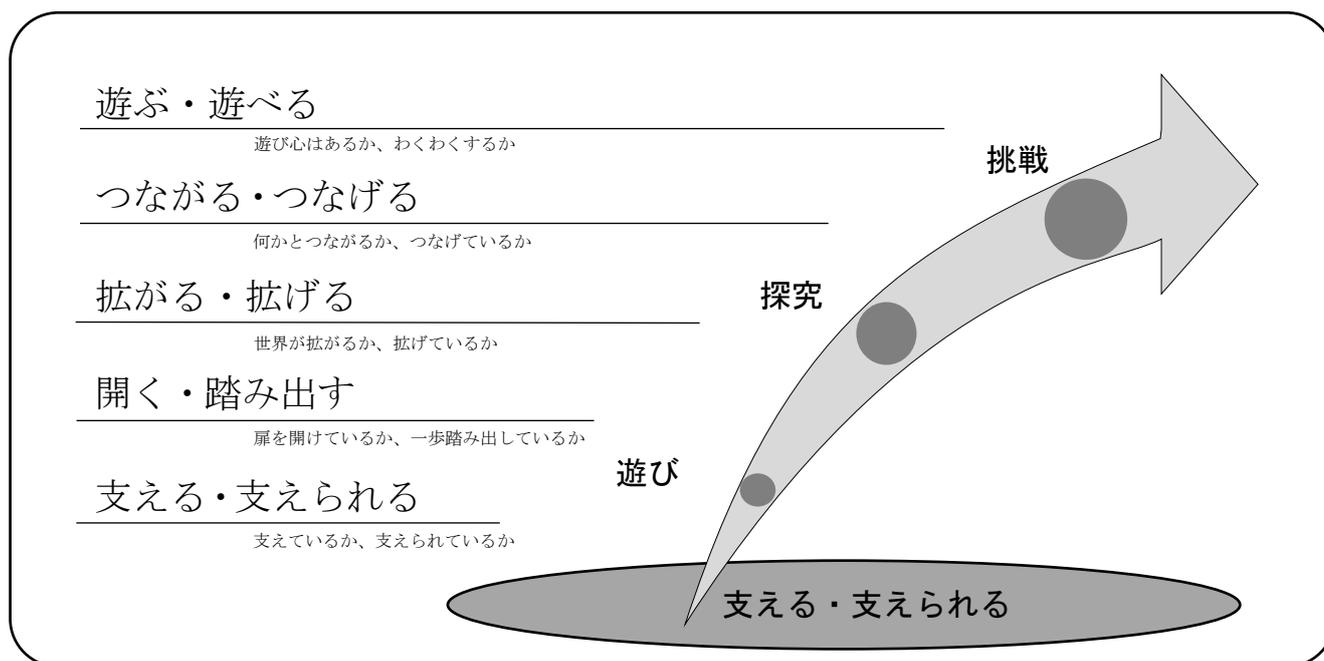
遊ぶ、遊べる	----	遊び心はあるか、わくわくするか
つながる、つなげる	----	何かとつながるか、つなげているか
拡がる、拡げる	----	世界が拡がるか、拡げているか
開く、踏み出す	----	扉を開けているか、一步踏み出しているか
支える、支えられる	----	支えているか、支えられているか

安平町の教育は、子どもから大人まですべての町民が充実した学びと自己実現が図られるよう、学校と地域（社会教育）の双方に主体性があり町民相互の学び合いを叶える学社融合・ふるさと教育に力を入れて取り組んでいます。

また、幼いころから遊びの中でエネルギーを培い、成長と共に自ら考え、夢を見つけ、学びと挑戦による体験を積み重ねた深い経験を礎とし、子どもたちの将来性・可能性を大きな世界へと広げていく0歳から15歳までの教育のつながりも大切にしています。

学校を通して、子どもから大人までわくわくすること、地域とつながり学びがつながること、自分の世界が拡がること、自分自身を開きあらたな世界へ踏み出すこと。そして震災を経験し、自分たちが誰かに支えられて今があること、困っている時は助けを求め困っている人がいたら手を差し伸べること。

これが、学社融合・ふるさと教育を基底に世界へと羽ばたいていく教育に取り組んでいる安平町、震災を経験した安平町だからこそ、大切にしたい価値であり判断指針です。



### (1) 学校評価の新たな視座

現在の学校経営は、学校評価を起点とするカリキュラム・マネジメントが中心となっており、学習指導要領で示された資質・能力<sup>4</sup>を育成するために各学校の教育課程を軸に教育の質の向上が図られています。また、資質・能力の育成のためには学校の教育目標や目指す子ども像などを地域社会と共有しながら連携・協働を進める「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた取り組みが必要とされています。

安平町においては、子どもたちに知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」をより一層育み、学習指導要領で整理された3つ資質・能力を育成するために授業改善に取り組むとともに安平町の特色である学社融合・ふるさと教育および地域で推進している教育事業を学校教育と連携させ、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた取り組みを行っています。

今回、安平町として学校教育のあり方を見つめ直し、生涯学習計画の一部を構成する「安平町学校教育ビジョン」として、安平町の学校が果たすべき使命、ありたい将来像、大切にしたい価値や判断指針をまとめました。これは従来の学校評価（目標達成）からみる学校経営ではなく、「場」の創造というあり方から学校経営をみつめることで、結果として学校経営を評価する仕組みと「社会に開かれた教育課程」を実現できるという考え方です。

この学校経営のパラダイムシフトにあたり、学校評価や児童生徒の状況評価についても従来の枠組みとは違った視点の転換が必要になってきます。

### (2) 安平町学校アセスメント<sup>5</sup>

従来の学校評価は、学校の教育目標や重点目標に対して教育活動やその成果を評価するものでした。しかし、「場」の創造を起点とする学校経営においては、それらに加え、あり方を見つめる評価が必要になります。あり方は成果や手法ではないため「評価」という表現を用いると学校評価と混同するおそれがあることから、現状を多面多角的に把握する「アセスメント」という表現を用い、別に定める「安平町学校アセスメント」によって学校経営のあり方を見つめる評価を行います。

<sup>4</sup> ①実際の社会や生活で生きて働く『知識及び技能』、②未知の状況にも対応できる『思考力、判断力、表現力』、③学んだことを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力、人間性』

<sup>5</sup> 対象に関して様々な角度から把握した情報を基に、解決すべき課題を把握すること